

世界遺産学習の参考に

教員が熊野古道で研修

田辺市内の小中学校の社会科教員でつくる市教育研究会社会部会はこのほど、同市本宮町の具世

界遺産センターで世界遺産入門講座を受講した。

8人が参加した。世界遺産センターの速水盛康主任から、世界遺産の概要や歴史の講義を受けた後、熊野本宮大社や被戸(はらいど)王子近くの熊野古道を訪れた。

クイズ形式の講義や現地でのボランティア実習を通し、教育現場で世界遺産学習を効果的に進める方法について理解を深めた。

熊野古道では、速水主任が「歩く過程に、実際に古道に関する行動を加えることで、学習が実

感に変わる」と話し、保全活動ボランティアの内容を説明した。参加者は実際に雨水を古道から山へ流す「横断溝」の清掃を体験した。

参加した上芳養中学校の森脇敏文校長は「文化的景観や石畳の形式など、専門家ならではの視点を学ぶことができた。校内行事でもただ古道を歩くのではなく、子どもたちにそういう点を説明し、関心を深めてもらいたい」と話した。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を学ぶ学校や団体向けの入門講座が7月から同センターで

行っていることから、学校での世界遺産学習の参考にしようかと企画した。

参加した上芳養中学校の森脇敏文校長は「文化的景観や石畳の形式など、専門家ならではの視点を学ぶことができた。校内行事でもただ古道を歩くのではなく、子どもたちにそういう点を説明し、関心を深めてもらいたい」と話した。



熊野古道の雨水を排水する横断溝を清掃して仕組みを学ぶ教員ら(田辺市本宮町で)